

マーク オッペンハイマー

火曜日

2010年 12月 28日

仏教徒と私

ニューヨーク市、禅仏教徒指導者、島野栄道老師は、私の二三ヶ月前の記事、所謂彼のセックス不行跡の記事に対する返答を送ったと言う手紙を配布しているようです。彼の手紙が実際にタイムスに届いたのか否か、私は知りません。（もし彼が実際に手紙を投函したのであれば、記事掲載の四ヶ月後に投函したことになる）私の知っている事は、手紙の内容に彼は私と話をした事が無いと言っている事です。彼が言及していないことは、私が数えきれない程、彼の禅堂の留守番電話や、私の電話に対応した人々に伝言を残していることです。私は少なくとも三人の彼の理事会のメンバーと話をしてしています。ここで更に、島野栄道の手紙の一節がとりわけ私の好奇心を呼びます。

ミスター オッペンハイマーはこの記事を書くため、私と面接をしておらず、ミスター エイトケンとも、又記事で扱われている若い女性とも会っていません。記事によれば、彼は私と何度か連絡を取ろうとしたが、私が返答の電話をかけなかった --- これは完全に事実ではありません。私は一度もミスター オッペンハイマーから連絡を受けた事が無く、リビングストーン マナーの住所へも、又、ニューヨークの住所へも彼の書状は届いておりません。

12回にも渡って、連絡を取ろうとした私の試みを彼は全く知らなかったと言う可能性もあります。私の数々の伝言も、一切彼のもとに届かなかったと言う可能性も、私と話を交した理事会の人々も私が彼と連絡を取りたがっている事を伝言しなかったと言う可能性もあります。

可能性は、いくらもあります。

しかしここに、彼自身の理事会員の一人、げんじょう マリナロなる人物が状況を逆転する添削をしました。

この報告は非常に残念ですが、栄道老師は未だ否認の継続を諦めておりません。昨日、2010年12月1日付、ニューヨーク タイムス編集長宛、島野栄道署名による手紙を読みました。これを読んで、唯ひとこと私に言える事は、ショックを受け、困惑し、怒りを覚えたと言うことです。この手紙で彼は、8月21日付、ニューヨーク タイムスに掲載された記事は、事実ではないと表明し、さらに、“自分は辞職しなかった、何故かと言えば、これは虚偽の告発であるから”と主張しています。この陳述によれば、栄道老師の9月7日の公式謝罪は、単なる冷やかかしという事になります。このニューヨーク タイムス宛の手紙は、彼の、単純明白な歴史を書き換えようと言う試みであり、正真正銘の否定の一例なのです。

それ故に、私の書いた、栄道老師と（12月8日住持職を引退すると言う）ZSS理事会の同僚間で、現在討論進行中の退職契約の精神に反するものになります。さらに、前に言及した、栄道老師には古参の弟子の要求があれば、独参（個人評価、指導）を許可すると言う考慮も、彼が過去の行為に対し自責を抱き、彼自身仕出かした損傷を理解していると判断した上での事でした。

このような状況下で、私は全理事会に、此れ迄の評議を再検討するよう要請しました。私は、確信と決意をもって、ZSSの義務として成すべき事、前職員に関して人々が評価した事をも吟味して、仏陀の正しい教えのオアシスとして、真実なる命を鼓舞激励する一例を示す修行場の実現に臨みます。